会　議　録

会議名	令和８年度第１回山陽小野田市文化会館運営委員会
開催日時	令和８年７月２３日（木）１４時００分～１５時００分
開催場所	不二輸送機ホール　研修室
出席委員 (9 名)	富田委員（会長）、廣田委員（副会長）、縄田委員、竹内委員、竹川委員、倉田委員、枝村委員、佐々木委員、永田委員
欠席委員	なし
傍聴者	なし
担当課及び出席者	担当課：文化スポーツ推進課（文化会館） 村田次長、川﨑館長、松本館長補佐
会議次第	１　会長あいさつ ２　議事 (1) 令和７年度文化会館の利用状況について (2) 令和７年度市主催・共催事業について (3) 令和８年度市主催・共催事業について (4) その他
会議記録	１　会長あいさつ ２　議事 (1) 令和７年度文化会館の利用状況について 事務局－資料１、２に基づき説明した。 令和７年度の利用件数は７２７件、利用人数は３８，４２１人であった。利用率は、楽屋１が６６．３％で最も高く、次いで研修室５７．６％、スタジオ４９．０％であった。 令和６年度と比較すると、利用件数は７８６件から７２７件、利用人数は３９，３９０人から３８，４２１人となり、いずれも減少しているが、令和６年度は開館３０周年記念事業等により利用が多かったことが要因の一つであると説明した。 また、コロナ禍で一度落ち込んだ利用は回復傾向にあるものの、人口減少や、休止した文化活動の再開が容易でないことも影響していると説明した。 委　員－楽屋１の利用率が高い理由について、大ホール、小ホール利用時の控室以外の用途があるのか質問した。 また、そのような利用方法が広く周知されているのか確

	認し、多目的利用が可能であれば、より積極的に周知することで新たな利用につながるのではないかとの意見を述べた。 事務局－楽屋１については、鏡や床面の条件から、ダンス練習やピラティス等の多目的利用が可能であり、実際にそのような利用があると説明した。 また、楽屋２から５は主として大ホール利用者向けである一方、楽屋１は単独での貸出しも行っていると説明した。 現在は、一度利用した方が利便性を知り再度利用するケースが多く、ホームページ等で十分に周知しているわけではないため、今後の参考にしたいと述べた。 (2) 令和７年度市主催・共催事業について 事務局－資料３～５に基づき説明した。 主催事業として、山響サマーコンサート、第２９回山陽小野田市ピアノマラソン大会、山陽小野田市誕生２０周年記念事業「ＮＨＫのど自慢」、第２０回山陽小野田市民文化祭、山口県警察音楽隊ふれ愛コンサート、第１９回山陽小野田少年少女合唱祭、第２１回山陽小野田市児童生徒書道展、第１３回アートのたまてばこを実施したと説明した。 また、共催事業として、第１７回山陽小野田コーラスフェスティバル、０歳からのファミリーコンサート、休日昼下がりのティータイムコンサート、夏季声楽セミナー、第４９回全日本アンサンブルコンテスト山口県大会、第４８回ｔｙｓ山口県学生ピアノコンクール、アラ還フェスティバル、第２０回山口県ハーモニカ演奏交流会等を実施したと説明した。 委　員－「ＮＨＫのど自慢」について、市からの働きかけで実現したのか質問した。 また、テレビ番組の公開収録等は、市のＰＲにつながるため、ＮＨＫに限らず情報収集を行い、山陽小野田市を広く発信する機会を増やせないかとの意見を述べた。 事務局－ＮＨＫ公開番組については毎年応募しており、今回は市誕生２０周年記念事業として採択されたと説明した。 また、宝くじ助成事業や三井住友海上文化財団の助成事

	業など、活用可能な制度には積極的に応募していると説明した。 民放番組については、文化会館側から応募する形式のものがあるかは把握していないが、収録等の相談は主としてテレビ局側からあると説明した。 会　長－事務局においても情報収集に努めているところであるが、委員においても有益な情報があれば提供いただきたいと述べた。 (3) 令和８年度市主催・共催事業について 事務局－資料６、７に基づき説明した。 令和８年度の主催事業として、山響サマーコンサート、第３０回山陽小野田市ピアノマラソン大会、第２１回山陽小野田市民文化祭、三井住友海上文化財団「地域住民のためのコンサート」～加耒徹バリトン・リサイタル～、山口県警察音楽隊演奏会、第２０回山陽小野田少年少女合唱祭、第２２回山陽小野田市児童生徒書道展、第１４回アートのたまてばこを予定していると説明した。 また、共催事業として、第１８回山陽小野田コーラスフェスティバル、０歳からのファミリーコンサート、休日昼下がりのティータイムコンサート、夏季声楽セミナー、第５０回全日本アンサンブルコンテスト山口県大会、第４９回ｔｙｓ山口県学生ピアノコンクール、アラ還フェスティバル、第２１回山口県ハーモニカ定期演奏交流会等を予定していると説明した。 加えて、加耒徹バリトン・リサイタルに関連し、地域住民との交流企画として、市内の小・中・高校生等を対象とした期間限定合唱団「ときめき合唱団」を結成し、出演者を募集していると説明した。 委　員－毎年継続している事業は重要であると評価した上で、このホールは音響面で優れているため、市内向けだけでなく、市外・県外へも発信できる音楽イベントを企画してはどうかと意見を述べた。 また、将来的には、コンクール等の対外的な事業の開催も、市の文化発信につながるのではないかと述べた。 事務局－新規の大規模事業については、予算面の制約があり容易ではないが、三井住友海上文化財団のような助成事業の

	活用については、引き続き検討していきたいと述べた。 また、市主催事業に限らず、貸館においても質の高い公演が実施されており、そうした催しも含めて会館の魅力向上につなげていきたいと説明した。 委　員－文化協会としても、クラウドファンディング等を活用しながら演奏会を継続して企画していると述べた。 文化は地域内だけで完結するものではなく、外に向けて発信し、外からも入ってくることで高まっていくものであるとし、市外の優れた団体や演奏家を招く取組が広がればよいとの意見を述べた。 副会長－若い演奏家を地域で育てていく視点も重要であると述べた。 また、夏季声楽セミナーのように、外部講師を招き、人材育成と地域とのつながりをつくる取組は意義があり、継続的な展開につながればよいとの意見を述べた。 委　員－「ときめき合唱団」について、大学生まで対象を広げることはできないかと提案した。 委　員－「ときめき合唱団」について、まちづくり協議会は旧公民館単位で複数あるため、そのような地域組織を通じた周知も一つの方法ではないかと述べた。 事務局－当初は小中学生を対象としていたが、協議の結果、高校生まで対象を広げた経緯があると説明した。 応募状況や指導者との調整次第では、大学生への対象拡大も検討の余地があると述べた。 また、地域交流センターへのチラシ配置は行っているが、より効果的な周知方法についても検討したいと述べた。 (4) その他 事務局－資料８「文化会館事業に関する要望書（案）」について説明した。 前回会議において、佐世保音楽隊演奏会の開催について、本運営委員会から要望書を提出してはどうかとの意見があったことを受け、案を作成したものであると説明し、内容について意見を求めた。 また、市の予算編成は、夏の実施計画、企画・財政部門との調整を経て、最終的に年明け頃に固まる流れである

	と説明した。 委　員－要望書の内容自体に異論はないとした上で、今後どのように実現に向けて取り組むかが重要であると述べた。 佐世保音楽隊演奏会については、予算の確保だけでなく、相手方に来てもらえるよう早い段階で働きかけることが不可欠であると説明した。 下関での公演日程の前後に組み込める可能性や、これまで築いてきた関係性を踏まえると、今が好機であるため、ぜひ本気で取り組んでほしいと要望した。 また、予算が固まってから依頼するのでは遅く、仮に結果として実現しなかったとしても、先に動くことが必要ではないかとの考えを示した。 事務局－昨年度は予算を確保できず、関係者に迷惑をかけたことを重く受け止めていると述べた。 今回の要望書については、文化会館運営委員会からの正式な要望として受け止め、市長、副市長及び企画財政部門と協議を進めたいと説明した。 また、締切や相手方への配慮も踏まえ、９月中旬頃までを目途に方向性を整理していきたいと述べた。 あわせて、会館の日程についても、候補日を意識して調整したいと説明した。 会　長－要望書の提出について、必要であれば自ら対応する意向を示したが、具体的な提出方法や進め方については事務局に一任することとした。 副会長－文化事業は継続が重要であり、佐世保音楽隊演奏会に限らず、子ども文化ふれあい事業のような取組も含め、市として文化により一層目を向けてほしいとの意見があった。 委　員－地域では高齢者の移動手段の確保が課題となっていると述べた。 その中で、自身の地域では、文化会館の催しの情報を回覧し、希望者のチケットを取りまとめて購入し、送迎も行っていると紹介した。 また、文化会館のホームページやイベント情報の発信が以前より分かりやすくなっており、今後も市民に情報が届くよう努めてほしいと述べた。 委　員－当日配布されたイベント情報について、文化会館で開催される催しが一覧でき、大変分かりやすくありがたいと

	述べた。 また、これまで知らなかった催しも多く、紙媒体での案内は引き続き有効であるとの意見を述べた。 若い世代は歌だけでなくダンスへの関心も高いため、ダンス系イベントの企画等もあればよいのではないかとの意見があった。 委　員－また、貸館で行われる高校の定期演奏会など、質の高い催しも多いため、そのような情報発信もさらに充実するとよいとの意見があった。 ３　閉会 会　長－本日の議事は全て終了したとして、出席委員に謝意を述べた。 事務局－以上をもって、令和８年度第１回山陽小野田市文化会館運営委員会を終了する。